

## 日本史 出題の意図

### 問題Ⅰ

世界史的な視野のなかで日露戦争を考えることができるか、問うものである。

### 問題Ⅱ

日本の絵画史について、歴史の中で作品をとらえることが出来ているか、各時代の特色を把握できているかを問うものである。

- 問 1 飛鳥時代の絵画が大陸・半島からもたらされた文化に基づくものであることを理解しているかを問うものである。
- 問 2 奈良時代以前とは異なる宗教的な要因によって成立したことを理解しているかを問うものである。
- 問 3 国風文化のもとに大和絵が制作され、画題に日本の風景や出来事、人物などが用いられたことを理解しているかを問うものである。
- 問 4 日本的な水墨画様式が成立した背景を理解しているかを問うものである。
- 問 5 安土桃山時代に豪勢華麗な絵画が成立した背景を理解しているかを問うものである。
- 問 6 江戸時代になって絵画が庶民にも普及した理由を理解しているかを問うものである。

### 問題Ⅲ

史料を読解し、古代の政治史について論理的に叙述できるかどうかを問う。

- 問 1 国司と郡司の出身母体の違いについて理解できているかを問う。
- 問 2 木簡の働きから郡司の権限を読み取れるかどうかを問う。
- 問 3 藤原種継暗殺事件について理解できているかを問う。
- 問 4 後三条天皇の政策基調について理解できているかを問う。

### 問題Ⅳ

南北朝の動乱および室町幕府の成立に関する政治・経済・文化をめぐる基礎的理解および考察力を問うものである。

- 問 1 南北朝・室町初期の文化史を代表する『太平記』に関する基礎的知識を問うものである。
- 問 2 南北朝期の動乱をめぐる知識をふまえた史料の読解能力を問うものである。
- 問 3 荘園制経済にかかわる半済令をめぐる理解を問うものである。
- 問 4 足利義満の明德の乱を通じた権力確立につき、史料をふまえた考察能力を問うものである。

## 問題Ⅴ

地震災害を題材に、近世・近現代の基礎的知識についての理解力・考察力を問うものである。

問1 日露和親条約の国境協定について理解できているか問うものである。

問2 村山談話の意義について理解できているか問うものである。

問3 水戸学とその影響について理解できているか問うものである。

問4 戦時下の報道管制について史料から考察して自身の言葉で説明できるか問うものである。

問5 関東大震災後に発生した諸事件について理解しているか問うものである。

問6 日本史の基礎的知識を用いて問題文から歴史事象を読み解くことができるか、思考力・判断力を問うものである。

## 日本史 解答例

日本史の記述式の問題では思考力や論述力を重視しており、受験者の多様な思考に基づいた、幅のある解答を想定しています。したがって、自由度を制限することになりかねない固定的な「正解」を示すことは不適當と考えております。以下はあくまでも一つの「解答例」であり、画一的な解答スタイルを押し付けるものではありません。

### 問題Ⅰ

イギリスから見て日露戦争は、世界的なイギリス・ロシアの対立構造のなかで起こった戦争であった。イギリスは、ロシアの極東進出を抑止しつつ、中国における自国の権益を保持するため日本に接近し、清国・韓国における日英両国の利益を相互承認する日英同盟を1902年に締結した。同盟によりイギリスの後ろ盾を得た日本とロシアとの戦争は、英露対立の代理戦争の側面があった。しかし、日露戦争の結果によって東アジアにおけるロシアの脅威が払拭されると、ドイツを共通の敵としてイギリスとロシアが接近し、英露協商が締結された。日露戦争を転機として、イギリス・フランス・ロシアの三国協商が成立し、ドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟に対抗する形で国際関係はイギリス・ドイツの対立軸へと移行した。(333字)

### 問題Ⅱ

- 問1 仏教の普及により仏教絵画が制作された。遣隋使・遣唐使による中国大陸や朝鮮半島との交流が盛んとなり、唐風文化の影響を強く受けた絵画が制作された。
- 問2 天台宗・真言宗の密教が盛んになった。また極楽浄土往生を願う浄土教が流行した。
- 問3 それまでの大陸文化をふまえて日本風に工夫した日本独自の絵画が描かれるようになり、文学作品や都での行事・事件、寺社縁起や高僧の伝記、擬人化した動物などが題材とされた。
- 問4 明に渡って水墨画の作画技法を学び、帰国して日本独自の画風を確立した。
- 問5 絵師が武将や僧侶に重用され、城や寺院の壁や襖に使われた。
- 問6 人気の作品を大量に制作することが可能となり庶民にも安価に入手できるようになった。

### 問題Ⅲ

- 問1 郡司は事務能力を優先して任命されることとされたが、実際にはもともと国造であった地方豪族から任命されており、中央から派遣される国司とは出身母体が異なっていた。
- 問2 郡司は管轄下の郷長や里正に命令を下して、物資や人員を徴発していた。
- 問3 長岡京遷都を主導した藤原種継を大伴氏、佐伯氏らが暗殺した事件である。これに対し桓武天皇は、犯人および首謀者と見なした皇太子早良親王を粛清した。
- 問4 藤原氏を外戚としない後三条天皇は、摂関家領を含めて、寛徳二年以後新たに立てられた荘園および証拠文書が整わず国司行政の妨げとなる荘園を停止した。また、これを審査する記録荘園券契所を中央に設けて実効性をはかった。

#### 問題Ⅳ

- 問 1 南方は幕府のたてた北朝、宮方は幕府の武家方に対する呼称で、南朝を意味する。「太平記」は南北朝の動乱を描いた軍記物語で、長く語り継がれた。
- 問 2 義詮は、山名氏を許し北朝・室町幕府の味方とすれば、南朝方が力を失い西国も安定すると考え、山名氏が実力で得ていた守護職を含め、そのまま認めた。
- 問 3 守護は軍事費調達を名目とした幕府の半済令により、管轄国の荘園公領の収益の半分以上を正式に与えられ、管轄国の土地や武士に対する支配力を強めた。
- 問 4 義満は、明德の乱で山名氏の勢力を削減し、幕府に背いてこそ所領は多く得られると陰口を言い合っていた「多年旧功の人々」の不満を和らげようとした。

#### 問題Ⅴ

- 問 1 日本とロシアの国境問題について、千島列島における国境を定め、樺太は従来どおり境界を定めないこととした。
- 問 2 日本の植民地支配と侵略によりアジア諸国民に多大の損害と苦痛を与えたことを反省し、公式に謝罪を表明した。
- 問 3 尊王論と攘夷論を結びつけた尊王攘夷論を説き、それが条約勅許問題以降は幕政批判の思想的基盤となって尊攘運動が展開した。
- 問 4 国民の戦意喪失を回避し、また軍需工場の被災状況が外部に漏れるのを防ぐ目的があったとも考えられる。
- 問 5 日本の植民地支配に対する抵抗運動への恐怖心、朝鮮人に対する民族的な差別意識が背景にあったとも考えられる。
- 問 6 A. 4      B. 1 2      C. 5      D. 9      E. 1      F. 8